

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈4月19日（金）放送分〉

テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今年度は、毎月第3金曜日に、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズをお届けします。

第1回目は徳之島の天城町の昔話「^{あかだまつ}赤田松の話」です。

昔、赤田松と言われる大きな松の木のそばに二人の若い夫婦が住んでいました。やがて宝石のように光り輝く美しい女の子が生まれました。女の子は年が経つにつれ、ますます美しくなりました。あまりの美しさに両親は、この子は神様が授けてくださったのだといってとても可愛がりました。

女の子が四歳になった冬のことでした。父が海に魚釣りに行き、母は川に芋を洗いに行くあいだ、女の子を家の入口の近くに昼寝させていました。

ちょっとのあいだと思って川に行っていた母が家に帰ってみると、女の子の姿が見えません。やがて帰ってきた夫と二人であちこち探しましたが見つかりません。

次の日、また次の日と、夜も眠らずに探し回りましたが女の子は見つかりませんでした。

やがて一週間が過ぎてしまいました。ちょうどその明け方に、母親が女の子の夢を見ました。夢の中で女の子は、

「私が家の入口に眠っていると、白い着物を着た美しい女の人が『あなたは下界の人ではない』といって私を天国に連れていきました。私は天国で楽しい日々を過ごしていますから、どうぞお父様もお母様も幸せに暮らしてください。そして、正月二日の夜中には^{あま}天城岳から赤田松のてっぺんまで、きれいなちょうちんが列を作って並びますから、それを私を思って見てください。」

と、母親に話しました。

翌朝、妻はさっそく夫にそのことを話すと、夫は、

「それでは正月の二日まで待つことにしよう。そして、それが本当だったら、あの子は神様の子としてあきらめなければならない。」

と話し合って、正月を待っていました。

やがてその日がやってきました。両親は今晚こそは可愛い子どもに会えると思って、夜中まで眠らずに待っていました。

そして夜の二時頃、とうとうあの明け方の夢が実現されたのです。夫婦はあまりの驚きに我を忘れて、ちょうちんに飛びつこうとしましたが、それはできませんでした。

それからは「朝夢は本当だ」と伝えられています。

さて、みなさんは「夢」といえば何をイメージしますか。昔話の世界にはいろいろな「夢」が登場し、それぞれに「意味」があるようです。「朝方に見た夢は本当になる」といわれることがあります。これは目覚める直前の夢やその内容を覚えていることが多いことと関係があるともいわれています。自分が見たい夢を思い通りに見ることができれば素敵ですが、現実にはなかなか難しいですね。

奄美図書館には、みなさんの素敵な夢につながるような本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。